

桐朋アカデミー・オーケストラ



2014春季 コンサート スケジュール

桐朋オーケストラ・アカデミー
「友の会」会員募集中

4/26(土)

桐朋アカデミー・オーケストラ

第48回 定期演奏会

オーバード・ホール [JR富山駅北口そば]
開演 14:00(開場13:30)

指揮・ヴァイオリン／服部譲二
チェロ／山崎伸子

●ブラームス

ヴァイオリンとチェロのための
二重協奏曲 イ短調 作品102

●ベートーヴェン

交響曲 第6番 ヘ長調「田園」
作品68

入場料2,000円

(全席自由／友の会会員・学生・生徒・児童 無料)

5/24(土)・5/25(日)

桐朋学園大学院大学 桐朋アカデミー・オーケストラ

コンチェルト実習公開授業

富山市民芸術創造センター・リハーサル室
[JR呉羽駅南側徒歩5分]
開演 両日とも14:00(開場13:30)

指揮／高関 健

独奏／桐朋学園大学院大学第2年次生

●ショーン

詩曲 作品25

●モーツァルト

ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466

●ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37

●シューマン

ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

(演奏順不同)

入場無料

6/7(土)

桐朋アカデミー・オーケストラ

特別演奏会

(ベルリン・フィルハーモニー
管弦楽団のメンバーを迎えて)

オーバード・ホール [JR富山駅北口そば]
開演 14:00(開場13:30)

指揮／トマシュ・ブガイ

●ロッシーニ

歌劇「イタリアのトルコ人」序曲

●シューベルト

交響曲 第4番 ハ短調「悲劇的」
D.417

●チャイコフスキー

交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

入場料3,000円

(全席自由／友の会会員・学生・生徒・児童 無料)

※演奏曲目・出演者等は変更になる場合もあります。演奏会等に関する最新情報は、本学ホームページ(<http://www.tohomusic.ac.jp>)をご覧ください。

※チケットは3月1日(土)より下記プレイガイドにて一斉発売。有料の演奏会につきましても、桐朋オーケストラ・アカデミー友の会会員・学生・生徒・児童の皆様は、無料でご入場いただけますが、満席となった際は入場をお断りすることがございます。あらかじめご了承ください。

チケット販売所 桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務室、北日本新聞本社プレイガイド、アスネットカウンター(オーバード・ホール1F)、ミヤコ楽器店

主催／桐朋オーケストラ・アカデミー、桐朋学園大学音楽学部、桐朋学園大学院大学、(公財)富山市民文化事業団、富山市、富山市教育委員会、(株)北日本新聞社 後援／富山県、(一社)富山県芸術文化協会
[お問い合わせ] 〒930-0138 富山市呉羽町 1884-17 桐朋学園音楽部門富山キャンパス事務室演奏課 TEL.076-434-6800

桐朋アカデミー・オーケストラ 2014春季コンサート・スケジュール

4月26日(土) 第48回 定期演奏会



[指揮・ヴァイオリン]
服部 譲二 HATTORI Joji

1969年東京生まれ。8歳で家族と共にウィーンに移り住む。ウィーン・フィルのトップメンバーたちと室内楽を楽しみながら育ったことが、その後の音楽観の形成に大きな影響を与えた。ヴァイオリンをライナー・キューヒルのほか、ミシェル・シュヴァルベ、ウラディーミール・スピヴァコフに師事。またユーディ・メニューインとの交流によって音楽面のみならず、人間的にも多大な影響を受けている。20歳でイギリスのメニューイン国際ヴァイオリン・コンクールで第1位、同時にバッハ賞・聴衆賞を受賞。92年、第3回新日鉄音楽賞「フレッシュ・アーティスト」を受賞。

ヴァイオリニストとして国際的に活躍後、2002年に第1回マゼール／ヴィナー指揮者コンクールにおいて「リンカーン・マゼール・フェロシシップ賞」を受賞、カーネギー・ホールでのデビューを果たす。これを機に、指揮者として本格的に始動。

04年よりウィーン室内管弦楽団の正指揮者に就任、ウィーン・コンツェルトハウスでの定期演奏会のほか、スイス、フランス、南米、インドなど、海外ツアー公演でも成功をおさめる。そのほか最近ではウィーン交響楽団、フィルハーモニア管(09年、11年のロイヤル・フェスティバル・ホールにてのロンドン定期公演など)、BBCコンサート・オーケストラ、デュッセルドルフ交響楽団、スロヴァキア・フィル、読響、札幌、関西フィルなどを

指揮している。また、これまでマリア・ジョアン・ピリス、ピョートル・アンドルジェフスキ、エリザベス・レオンスカヤ等のソリストと共演している。

オペラ指揮者としては、04年、ウィーン室内歌劇場のモーツァルト「偽の女庭師」でデビュー。05年に新国立劇場の小劇場にレオンカヴァッロ「ザザ」(日本初演)で初登場、06年には同大劇場で指揮した。07/08シーズンにはドイツ・エアフルト歌劇場の第1カペルマイスターを務めた。09年にはウィーン国立歌劇場にてモーツァルトの「魔笛」を3回指揮し、好評を博す。更に09年夏以来、オーストリア・キッツェー・サマーフェスティバルの音楽監督を務めている。

日本では、01年に日本を代表する若手音楽家から成る新しい室内オーケストラ「東京アンサンブル」を結成し、毎年、東京公演のほか、韓国、ポルトガル、カナダ、オーストリア、ギリシャ、トルコにて海外ツアー公演も行っている。また、09年より落語とコラボレーションした「オペラプロジェクト」を開始。

12年には4月チャイナ・フィルハーモニック・オーケストラと北京にてヴァイオリン・ソリストとして共演、11月には、ウィーン室内管弦楽団と東南アジア・ツアーを成功させた。13年もヨーロッパを中心に活動し、日本では5月に関西フィルを指揮した。

その他、メニューイン国際ヴァイオリン・コンクールの会長及び審査員。03年よりイギリスの王立音楽院の名誉会員。また、他分野への興味も深く、オックスフォード大学で、社会学を学んで以来、ナショナル・アイデンティティの研究を続けている。



[チェロ]
山崎 伸子 YAMAZAKI Nobuko

広島生まれ。桐朋女子高等学校音楽科、同大学音楽学部卒業。齋藤秀雄、レイス・フアン、堤剛、安田謙一郎、藤原真理の各氏に師事。

第1回民音室内楽コンクール第1位、第44回日本音楽コンクール・チェロ部門第1位。卒業後、文化庁海外派遣研修員として、2年間ジュネーブでピエール・フルニエに師事。帰国後は日本国内の主要オーケストラとの共演のほか、サントリーホール・オープニングシリーズでイギリス室内管との共演、スイス・ロマン管や、バンベルク響のソリスト、カザルスホール・チェロ連続リサイタルへの出演、ブレアデス・ストリング・

カルテット主軸として、ベートーヴェンの弦楽四重奏全曲に取り組むなど、卓越した音楽性を発揮している。最近では、マルタ・アルゲリッチ、堀米ゆず子等との共演で「見事に自身の歌を聴かせて情感の幅をより豊かに、またふくよかにしてくれた山崎の充実ぶりも驚異的だった。感動と同時に感謝である。」とその実力が高く評価されている。2007年より10年にわたり津田ホールでチェロ・ソナタ・シリーズを開催。またこのシリーズと平行して、チェロ・リサイタルVol.1がリリース(ナミ・レコード)。同シリーズのチェロ・リサイタルVol.4が「2011年度第49回レコード・アカデミー賞 室内楽部門」を受賞。

1987年「村松賞」、「グローバル音楽賞第1回奨励賞」受賞。2012年度「東燃ゼネラル音楽賞」(旧:エクソンモービル音楽賞)奨励賞受賞。

5月24日(土)・25日(日) コンチェルト実習公開授業



[指揮]
高関 健 TAKASEKI Ken

桐朋学園大学在学中の1977年にカラヤン指揮者コンクールジャパンで優勝。翌年同大卒業後、ベルリン・フィル・オーケストラ・アカデミーに留学、1985年までヘルベルト・フォン・カラヤン氏のアシスタントを務めた。

1981年タンブルウッド音楽祭でレナード・バーンスタイン氏、小澤征爾氏らに指導を受け、同年ベルゲン交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。

1983年ニコライ・マルコ記念国際指揮者コンクール第2位。1984年ハンス・スワロフスキー国際指揮者コンクール優勝を経て、1985年1月に日本フィル定期演奏会で日本デビュー。大好評を持って迎えられ、1991年NHK交響楽団定期公演でも絶賛を博すなど、その後の活躍の礎とした。

国内オーケストラはもとより、ウィーン交響楽団、オスロ・フィル、ベルリン・ドイツ交響楽団、クラクフ・オーラム・ウィーン、ケルン放送交響楽団などに客演。2013年2月にはサンクトペテルブルグ・フィル定期演奏会を指揮、ロシアの名門オーケストラから豊潤な響けを引き出し、聴衆や楽員から大絶賛を受けた。

2009年のピエール・ブレーズ京都賞受賞記念ワークショップではブレーズ氏から、ピアノのマルタ・アルゲリッチとチェロのミッシェル・マイスキーをソリストに迎えた2012

年の別府アルゲリッチ音楽祭でのシチュエーション作曲「ピアノとチェロのための二重協奏曲「ロマンティックな捧げもの」」日本初演では両氏からその演奏を絶賛されるなど、ソリストからも絶大な信頼を得ている。

オペラでは、二期会でモーツァルト「魔笛」(1990年、2007年)、「フィガロの結婚」(1991年)、モンテヴェルディ「ヘンツェ」「ウリッセの帰郷」(2009年)、群響定期公演でブッチーニ「トスカ」(1998年)、ヴェルディ「ファルスタッフ」(2003年)、すみだトリフォニーホールでプリテン「カーリユー・リヴァー」(1997年)等を指揮、2011年2月には「夕鶴」で新国立劇場オペラ公演にも初登場、いずれも好評を博した。

広島交響楽団音楽監督・常任指揮者(1986-1990年)、新日本フィル正指揮者(1994年-2001年)、大阪センチュリー交響楽団常任指揮者(1997年-2003年)、群馬交響楽団音楽監督(1993-2008年)、札幌交響楽団正指揮者(2003-2012年)などを歴任。特に群馬交響楽団からは、1994年「ブラハの春」、「ウィーン芸術週間」各音楽祭を含む欧州公演を成功に導いたのをはじめ、その演奏水準を大幅に引き上げた功績により、名誉指揮者の称号を贈られている。

第4回渡邊暁雄音楽基金音楽賞(1996年)、第10回齋藤秀雄メモリアル基金賞(2011年)を受賞。

東京藝術大学音楽学部指揮科招聘教授。

2014年4月より、京都市交響楽団常任首席客演指揮者に就任する。

6月7日(土) 特別演奏会



[指揮]
トマシュ・ブガイ Tomasz BUGAJ

ポーランドにおける戦後世代のトップ指揮者の一人。ポーランドの主要なオーケストラすべてに登場する。とくに、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団およびポーランド国立放送交響楽団、クラクフ・フィルハーモニーの芸術監督兼首席指揮者、ワルシャワにあるポーランド国立歌劇団の音楽監督、ピドゴシチとウッチにある交響楽団の芸術監督を務めてきた。ワルシャワにあるフレデリック・ショパン音楽大学では、指揮学部の学部長を務めている。

1950年生まれ。ワルシャワ大学で音楽学を、ワルシャワ音楽院ではスタニスラフ・ヴィスロツキ教授の下で指揮を学ぶ。同音楽院を1974年に卒業。

サン・レモで行われるジュー・マリヌツィ指揮コンペで特賞(1976年)、英国のインベリアル・タバコ国際指揮者アワードで金賞(一等賞)を受賞したことから、ボーンマス交響楽団、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、BBCスコティッシュ交響楽団、BBCフィルハーモニック、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、スコットランド室内管弦楽団、アルスター管弦楽団などに長年にわたり登場するようになった。

英国以外のヨーロッパでは、ポーランドでの定期公演、頻繁な南米訪問に加えて、ドイツ、オーストリア(主にザルツブルク・モーツァルト管弦楽団)、チェコ共和国、フィンランド、ノルウェー、スペイン、オランダ、イタリア、ロシアで頻繁に登場している。

長年関わったワルシャワ室内歌劇場では、最初は副指揮者を、続いて音楽監督と首席指揮者を務めている。同歌劇場では、ロッシーニとドニゼッティの主要な作品に加えて、ハイドン、ベルゴレージ、バイゼット、チャロ・ザ・テレマン、ヘンデルの歌劇を推進した。また、モーツァルトの解釈がとくに高い評価を得ている。以降、歌劇では英国のオペラ・ノース(『後宮からの逃走』)、スペインのビルバオ(『椿姫』、『リゴレット』、『ランメルモールのルチア』、『ラ・ファウオリータ』、『コジ・ファン・トゥッテ』、『セビリアの理髪師』、『ラ・ボエーム』)との関わりで登場している。

レコード会社オルフェオは、バイエルン放送との協力により、2つの歌劇、グルックの『ラ・ダナンサ』と『ラ・コロナ』の氏による録音をリリースした。ポーランド国立歌劇団では、ヴェルディの『アイダ』と『椿姫』、オッフェンバックの『ホフマン物語』、ヴァーリーの『7つの大罪』、シマノフスキの『ロジェ王』、プロコフィエフの『ロミオとジュリエット』などを指揮した。パヴァ、モーツァルトからベンデレツキに至るオラトリオの解釈のほか、カルウオヴィチ、シマノフスキ、ルトスワフスキなど、ポーランド生まれのポーランド人作曲家への熱心な取り組みで高く評価されている。